

第2章 経済・生活支援の利用とキャリア支援の利用との関連 － 利用状況と有益性、評価の観点からみて －

希望する全ての人々が高等教育を受けられるよう、教育費負担を軽減するため、奨学金制度や授業料減免制度の拡充が推し進められている。

本章では、本学の学生（本調査の回答者）の経済・生活支援の利用状況を概観したうえで、その利用状況と、本学で行っている就職・進学のためのキャリア支援の利用状況との関連について、キャリア支援を利用している者に対する有益性にも目を向けながら示すとともに、キャリア支援に対する評価との関連についても捉えていく。

その結果に基づき、経済・生活支援やキャリア支援を有効に、かつ、統合的に行うための示唆を得ることとしたい。

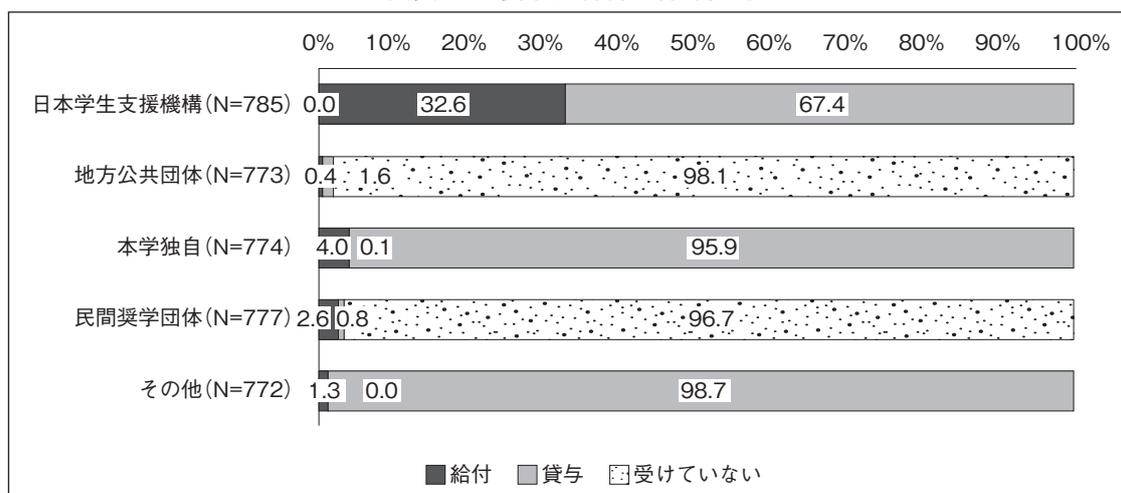
(1)経済・生活支援の利用状況

まず本節では、本学の学生の経済・生活支援の利用状況として、「奨学金制度」「授業料免除制度」「学生寮」の利用状況に着目して概観していく。

1) 奨学金制度の利用状況

奨学金制度は、経済的支援として大きな役割を担っている。本学では、日本学生支援機構、地方公共団体や民間団体等からの奨学金のほかにも、大学独自の奨学金を多数用意している。これらの奨学金制度の利用状況について、「給付」「貸与」「受けていない」別に示したものが図表2-1である。

図表2-1 奨学金制度の利用状況



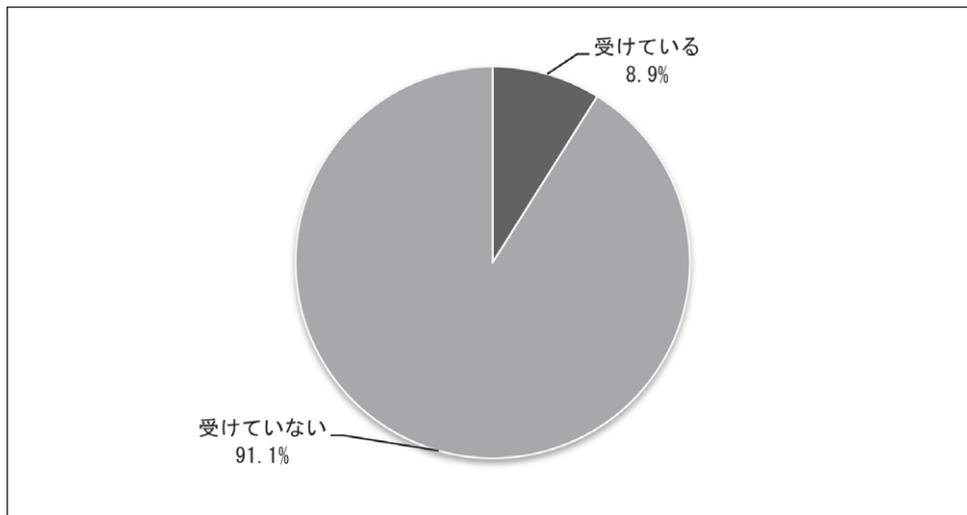
その結果、日本学生支援機構以外の奨学金制度を利用している者は、いずれも5%未満に留まっていることがわかる。この点をふまえ、次節以降の分析では、奨学金制度の利用状況として、日本学生支援機構の奨学金の利用状況に焦点をあてて進めることとする。

2) 授業料免除制度の利用状況

国立大学における授業料免除制度は、経済的な理由によって授業料の納付が困難、かつ、学業優秀と認められる者等にその納付を免除することにより、修学継続を容易にするもので、学生に対する奨学援護の一環として重要な役割を果たしている。

図表2-2は、授業料免除制度の利用状況について、「受けている」「受けていない」別に示したものである。その結果、本学では、授業料免除制度を利用している者は全体の8.9%であることがわかる。

図表2-2 授業料免除制度の利用状況

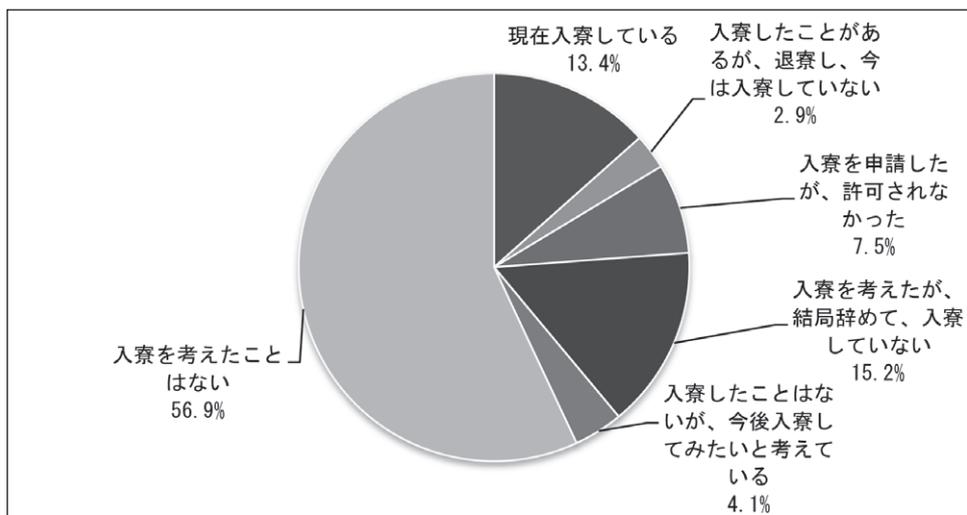


3) 学生寮の利用状況

本学では、学部学生および留学生を対象とした「国際学生宿舎」、大学院生を対象とした「小石川寮」、学部1・2年生を対象とした「お茶大SCC (Students Community Commons)」の3つの学生寮を運営している。これらの寮は、入寮対象の学年が異なる以外にもそれぞれに特徴があり機能分化がなされているが、いずれも、住居を低価格で提供することにより、本学の経済・生活支援としての大きな役割を担っている。

図表2-3は、本学の3つの学生寮への入寮および申請、検討状況について、「現在入寮している」「入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」「入寮を申請したが、許可されなかった」「入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない」「入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている」「入寮を考えたことがない」別に示したものである。

図表2-3 学生寮の利用状況



その結果、入寮を考えたことはない者は56.9%であり、4割以上の者は、現在入寮していたり、入寮の申請や検討をしていた（している）ことがわかる。こうしたことから、本学における経済・生活支援の充実は多くの学生にとって意味のあるものであり、支援に関する情報をうまく伝えていくことも求められるだろう。

(2)奨学金制度の利用とキャリア支援の利用の関連

続いて本節では、日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況と本学のキャリア支援の利用状況との関連について、キャリア支援を利用している者に対する有益性にも目を向けながら示すとともに、キャリア支援に対する評価（本学のキャリア支援が十分に行われていると感じているのか）との関連についても捉えていく。

本学のキャリア支援としては、「本学の教員・指導教員等への相談」「本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」「本学(大学全体)で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加」「就職情報資料室の利用」「キャリアレポート放送局の利用」「キャリアカフェの利用」「就活パスポート（本学Webシステム）の利用」「キャリア支援センターのホームページを見る」を挙げ、その利用状況を複数回答可として尋ねた結果とともに、「利用したことがない」との回答結果についても着目していく。

1) 両支援の利用状況、キャリア支援の有益性との関連

図表2-4は、日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況と、本学のいずれのキャリア支援も「利用したことがない」との関連をクロス表で示したものである。

図表2-4 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
キャリア支援を「利用したことがない」

	利用したことがない		合計
	いいえ	はい	
貸与	161 62.9%	95 37.1%	256 100.0%
受けていない	313 59.2%	216 40.8%	529 100.0%
	474 60.4%	311 39.6%	785 100.0%

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、本学のキャリア支援を利用したことがない者はおよそ4割に及んでおり、有意差もみられない結果となった。

では、本学のそれぞれのキャリア支援の利用状況と日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況には関連がみられるのであろうか。

両者の関連をクロス表で示したものが図表2-5から図表2-14である。両者の関連を示すとともに、それぞれのキャリア支援を利用している者への有益性（「役立った」との回答率）についても目を向けていく。

図表2-5 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
本学の教員・指導教員への相談

	本学の教員・指導教員等への相談		合計
	いいえ	はい	
貸与	201 78.5%	55 21.5%	256 100.0%
受けていない	405 76.6%	124 23.4%	529 100.0%
	606 77.2%	179 22.8%	785 100.0%

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、本学の教員・指導教員等への相談をした者は2割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では38.2%、非利用者では60.5%と、両者で20%以上の違いが示されている。

図表2-6 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談

	本学のキャリアカウンセラーや キャリアアドバイザーへの相談		合計
	いいえ	はい	
貸与	219 85.5%	37 14.5%	256 100.0%
受けていない	463 87.5%	66 12.5%	529 100.0%
	682 86.9%	103 13.1%	785 100.0%

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者は1割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では62.2%、利用者では68.5%と、両者ともに6割を超える結果となっている。

図表2-7 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加

	本学(大学全体)で開催される各種 セミナーやガイダンスへの参加		合計
	いいえ	はい	
貸与	168 65.6%	88 34.4%	256 100.0%
受けていない	370 69.9%	159 30.1%	529 100.0%
	538 68.5%	247 31.5%	785 100.0%

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、本学の本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者は3割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では47.7%、非利用者では53.5%と、両者ともに5割程度の結果となっている。

図表2-8 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加

	学部で開催される各種セミナーや ガイダンスへの参加		合計
	いいえ	はい	
貸与	245 95.7%	11 4.3%	256 100.0%
受けていない	499 94.3%	30 5.7%	529 100.0%
	744 94.8%	41 5.2%	785 100.0%

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、学部で開催される各種セミナーやガイダンスへ

の参加をした者は5%程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では81.8%、非利用者では73.3%と、両者ともに非常に高い結果となっている。

図表2-9 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 × 学生相談室の相談や各種ワークショップへの参加

	学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加		合計
	いいえ	はい	
貸与	234 91.4%	22 8.6%	256 100.0%
受けていない	491 92.8%	38 7.2%	529 100.0%
	725 92.4%	60 7.6%	785 100.0%

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加をした者は1割に満たず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では40.9%、非利用者では55.3%と、両者で15%ほどの違いが示されている。

図表2-10 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 × 就職情報資料室の利用

	就職情報資料室の利用		合計
	いいえ	はい	
貸与	223 87.1%	33 12.9%	256 100.0%
受けていない	462 87.3%	67 12.7%	529 100.0%
	685 87.3%	100 12.7%	785 100.0%

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、就職情報資料室の利用をした者は1割程度に過ぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金利用者では36.4%、非利用者では47.8%と、両者で10%以上の違いが示されている。

図表2-11 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 × キャリアレポート放送局の利用

	キャリアレポート放送局の利用		合計
	いいえ	はい	
貸与	251 98.0%	5 2.0%	256 100.0%
受けていない	523 98.9%	6 1.1%	529 100.0%
	774 98.6%	11 1.4%	785 100.0%

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、キャリアレポート放送局の利用をした者は1~2%に過ぎず、有意差もみられなかった。利用者は極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では20.0%、非利用者では33.3%であった。

図表2-12 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
キャリアカフェの利用

	キャリアカフェの利用		合計
	いいえ	はい	
貸与	239	17	256
	93.4%	6.6%	100.0%
受けていない	500	29	529
	94.5%	5.5%	100.0%
	739	46	785
	94.1%	5.9%	100.0%

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、キャリアカフェの利用をした者は5～6%に過ぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金利用者では41.2%、非利用者では44.8%と、両者ともに4割程度の結果となっている。

図表2-13 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
就活パスポート（本学Webシステム）の利用

	就活パスポート（本学Webシステム）の利用		合計
	いいえ	はい	
貸与	246	10	256
	96.1%	3.9%	100.0%
受けていない	517	12	529
	97.7%	2.3%	100.0%
	763	22	785
	97.2%	2.8%	100.0%

奨学金の利用の有無にかかわらず、就活パスポート（本学Webシステム）の利用をした者は5%に満たず、有意差もみられなかった。利用者は少ないが、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では40.0%、非利用者では66.7%であった。

図表2-14 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
キャリア支援センターのホームページを見る

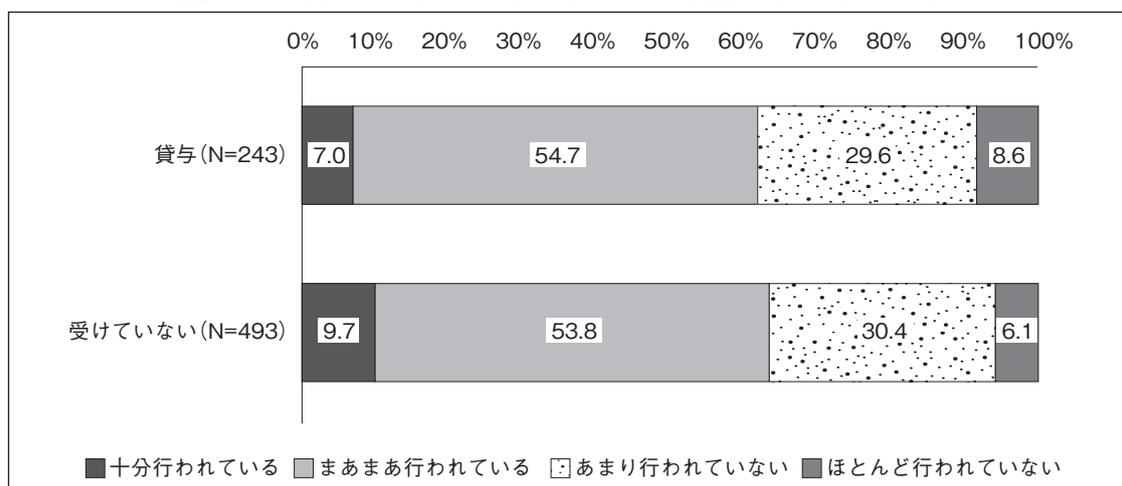
	キャリア支援センターのホームページを見る		合計
	いいえ	はい	
貸与	238	18	256
	93.0%	7.0%	100.0%
受けていない	494	35	529
	93.4%	6.6%	100.0%
	732	53	785
	93.2%	6.8%	100.0%

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、キャリア支援センターのホームページを見る者は7%程度に過ぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では44.4%、非利用者では37.1%と、両者ともに4割程度の結果となっている。

2) 奨学金制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

では、本学のキャリア支援全体に対する評価と、少なからずの学生が利用している日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況には関連がみられるのであろうか。両者の関連を示したものが図表2-15である。

図表2-15 奨学金制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連



その結果、本学のキャリア支援の評価率（「十分行われている」+「まあまあ行われている」）は、奨学金制度利用者では61.7%、非利用者では63.5%と、両者ともに6割以上であり、有意差も示されなかった。

ただし、先に言及したように、本学の教員・指導教員等への相談をした者、学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加をした者、就職情報資料室の利用をした者などは、それぞれのキャリア支援の有益性からみると、奨学金制度の利用状況による違いが示されており、いずれの場合でも、奨学金制度利用者が非利用者よりも有益であると感じていないことを看過してはいけないうらう。

(3) 授業料免除制度の利用状況とキャリア支援の利用状況の関連

続いて本節では、授業料免除制度の利用状況と本学のキャリア支援の利用状況との関連について、前節同様に示していく。

1) 両支援の利用状況、キャリア支援の有益性との関連

図表2-16は、授業料免除制度の利用状況と、本学のいずれのキャリア支援も「利用したことがない」との関連をクロス表で示したものである。

図表2-16 授業料免除制度の利用 ×
キャリア支援を「利用したことがない」

	利用したことがない		合計
	いいえ	はい	
受けている	42 60.9%	27 39.1%	69 100.0%
受けていない	426 60.4%	279 39.6%	705 100.0%
	468 60.5%	306 39.5%	774 100.0%

奨学金制度同様、授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、本学のキャリア支援を利用したことがない者はおよそ4割に及んでおり、有意差もみられない結果となった。

では、本学のそれぞれのキャリア支援の利用状況と授業料免除制度の利用状況にはいかなる関連がみられるのであろうか。

両者の利用状況の関連をクロス表で示したものが、図表2-17から図表2-26である。それぞれのキャリア支援を利用している者に対する有益性についても目を向けていく。

図表2-17 授業料免除制度の利用 ×
本学の教員・指導教員への相談

	本学の教員・指導教員等への相談		合計
	いいえ	はい	
受けている	55 79.7%	14 20.3%	69 100.0%
受けていない	541 76.7%	164 23.3%	705 100.0%
	596 77.0%	178 23.0%	774 100.0%

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、本学の教員・指導教員等への相談をした者は2割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では42.9%、非利用者では54.9%と、両者で10%以上の違いが示されている。

図表2-18 授業料免除制度の利用 ×
本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談

	本学のキャリアカウンセラーや キャリアアドバイザーへの相談		合計
	いいえ	はい	
受けている	58 84.1%	11 15.9%	69 100.0%
受けていない	615 87.2%	90 12.8%	705 100.0%
	673 87.0%	101 13.0%	774 100.0%

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者は1割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では54.6%、非利用者では68.9%と、両者で10%以上の違いが示されている。

図表2-19 授業料免除制度の利用 ×
本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加

	本学(大学全体)で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加		合計
	いいえ	はい	
受けている	51	18	69
	73.9%	26.1%	100.0%
受けていない	477	228	705
	67.7%	32.3%	100.0%
	528	246	774
	68.2%	31.8%	100.0%

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者は3割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では66.7%、非利用者では50.4%と、両者で15%以上の違いが示されている。

図表2-20 授業料免除制度の利用 ×
学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加

	学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加		合計
	いいえ	はい	
受けている	68	1	69
	98.6%	1.4%	100.0%
受けていない	665	40	705
	94.3%	5.7%	100.0%
	733	41	774
	94.7%	5.3%	100.0%

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者は極めて少なく、有意差もみられなかった。両支援利用者が極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では0%、非利用者では80.0%であった。

図表2-21 授業料免除制度の利用 ×
学生相談室の相談や各種ワークショップへの参加

	学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加		合計
	いいえ	はい	
受けている	62	7	69
	89.9%	10.1%	100.0%
受けていない	652	53	705
	92.5%	7.5%	100.0%
	714	60	774
	92.2%	7.8%	100.0%

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加をした者は1割程度であり、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では42.9%、非利用者では52.8%と、両者で10%程度の違いが示されている。

図表2-22 授業料免除制度の利用 × 就職情報資料室の利用

	就職情報資料室の利用		合計
	いいえ	はい	
受けている	56 81.2%	13 18.8%	69 100.0%
受けていない	620 87.9%	85 12.1%	705 100.0%
	676 87.3%	98 12.7%	774 100.0%

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、就職情報資料室の利用をした者は1～2割程度であり、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では23.1%、非利用者では48.2%と、両者で25%以上もの違いが示されている。

図表2-23 授業料免除制度の利用 × キャリアレポート放送局の利用

	キャリアレポート放送局の利用		合計
	いいえ	はい	
受けている	68 98.6%	1 1.4%	69 100.0%
受けていない	694 98.4%	11 1.6%	705 100.0%
	762 98.4%	12 1.6%	774 100.0%

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、キャリアレポート放送局の利用をした者は1～2%に過ぎず、有意差もみられなかった。利用者が極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では0%、非利用者では27.3%であった。

図表2-24 授業料免除制度の利用 × キャリアカフェの利用

	キャリアカフェの利用		合計
	いいえ	はい	
受けている	64 92.8%	5 7.2%	69 100.0%
受けていない	664 94.2%	41 5.8%	705 100.0%
	728 94.1%	46 5.9%	774 100.0%

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、キャリアカフェの利用をした者は1割に満たず、有意差もみられなかった。両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では20.0%、非利用者では46.3%と、両者で25%以上もの違いがみられた。

図表2-25 授業料免除制度の利用 × 就活パスポート（本学Webシステム）の利用

	就活パスポート（本学Webシステム）の利用		合計
	いいえ	はい	
受けている	66 95.7%	3 4.3%	69 100.0%
受けていない	687 97.4%	18 2.6%	705 100.0%
	753 97.3%	21 2.7%	774 100.0%

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、就活パスポート（本学Webシステム）の利用をした者は5%に満たず、有意差もみられなかった。両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では100.0%、非利用者では55.6%であった。

図表2-26 授業料免除制度の利用 ×
キャリア支援センターのホームページを見る

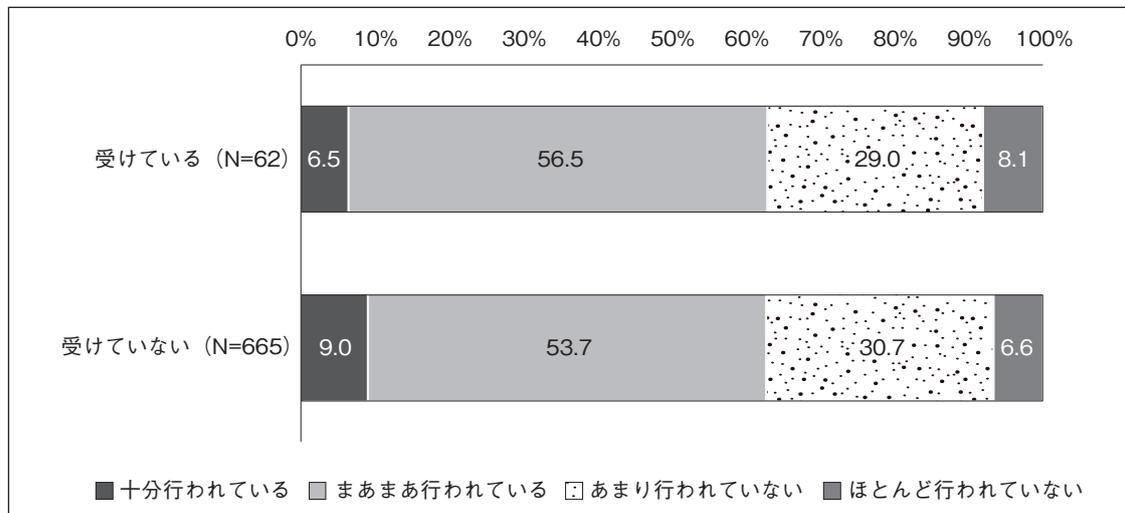
	キャリア支援センターのホームページを見る		合計
	いいえ	はい	
受けている	64 92.8%	5 7.2%	69 100.0%
受けていない	656 93.0%	49 7.0%	705 100.0%
	720 93.0%	54 7.0%	774 100.0%

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、キャリア支援センターのホームページを見る者は7%程度に過ぎず、有意差もみられなかった。両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では80.0%、非利用者では34.7%と、大きな違いがみられた。

2) 授業料免除制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

では、本学のキャリア支援全体に対する評価と授業料免除制度の利用状況には関連がみられるのであろうか。両者の関連を示したものが図表2-27である。

図表2-27 授業料免除制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連



その結果、本学のキャリア支援の評価率（「十分行われている」＋「まあまあ行われている」）は、授業料免除制度利用者では63.0%、非利用者では62.7%と、両者ともに6割以上であり、有意差も示されなかった。

ただし、先に言及したように、就職情報資料室の利用をした者、本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者、本学の教員・指導教員等への相談をした者、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者などは、それぞれのキャリア支援の有益性からみると、授業料免除制度の利用状況による違いが示されている。奨学金制度の際とは異なり、必ずしも利用者が非利用者よりも有益であると感じていないわけではない点も考慮して、両支援のあり方を検討する必要があるだろう。

(4) 学生寮の利用状況とキャリア支援の利用状況の関連

最後に本節では、本学の学生寮の利用状況と本学のキャリア支援の利用状況の関連について、これまで同様に示していく。

1) 両支援の利用状況、キャリア支援の有益性との関連

図表2-28は、学生寮の利用状況と、本学のいずれのキャリア支援も「利用したことがない」との関連をクロス表で示したものである。

図表2-28 学生寮の利用 × キャリア支援を「利用したことがない」

	利用したことがない		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	58 55.2%	47 44.8%	105 100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	13 56.5%	10 43.5%	23 100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	40 67.8%	19 32.2%	59 100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	71 59.7%	48 40.3%	119 100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	19 59.4%	13 40.6%	32 100.0%
入寮を考えたことはない	273 61.1%	174 38.9%	447 100.0%
	474 60.4%	311 39.6%	785 100.0%

学生寮の利用の有無にかかわらず、本学のキャリア支援を利用したことがない者はおよそ3～4割に及んでおり、有意差もみられない結果となった。

では、本学のそれぞれのキャリア支援の利用状況と学生寮の利用状況には関連がみられるのであろうか。

両者の関連をクロス表で示したものが図表2-29から図表2-38である。それぞれのキャリア支援を利用する者への有益性についても目を向けていく。

図表2-29 学生寮の利用 × 本学の教員・指導教員への相談

	本学の教員・指導教員等への相談		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	89 84.8%	16 15.2%	105 100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	18 78.3%	5 21.7%	23 100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	45 76.3%	14 23.7%	59 100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	90 75.6%	29 24.4%	119 100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	25 78.1%	7 21.9%	32 100.0%
入寮を考えたことはない	340 76.1%	107 23.9%	447 100.0%
	607 77.3%	178 22.7%	785 100.0%

有意差はみられないが、「現在入寮している」者の利用は15%程度と他の者に比べて低いことがうかがえる。なお、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では81.3%と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では49.5%であった。

図表2-30 学生寮の利用 ×
本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談

	本学のキャリアカウンセラーや キャリアアドバイザーへの相談		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	93 88.6%	12 11.4%	105 100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	14 60.9%	9 39.1%	23 100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	52 88.1%	7 11.9%	59 100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	101 84.9%	18 15.1%	119 100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	28 87.5%	4 12.5%	32 100.0%
入寮を考えたことはない	393 87.9%	54 12.1%	447 100.0%
	681 86.8%	104 13.2%	785 100.0%

学生寮の利用状況により、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者には有意差が示された ($p<.05$)。「入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」者の利用がおよそ4割であるのに対し、その他の者は1～2割にすぎないことがみてとれる。その一因としては、キャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談が他に比べて多く示された「入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」者は、上級生（1年生でこうしたケースは少ないため）であることが考えられる。上級生ほど、特に大学卒業後に就職することを予定している学生ほど、キャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーに相談をする可能性が高いことは容易に想像できるものである。

なお、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では75.0%と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では55.6%であった。

図表2-31 学生寮の利用 × 本学（大学全体）で開催される
各種セミナーやガイダンスへの参加

	本学(大学全体)で開催される各種 セミナーやガイダンスへの参加		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	75 71.4%	30 28.6%	105 100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	13 56.5%	10 43.5%	23 100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	36 61.0%	23 39.0%	59 100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	81 68.1%	38 31.9%	119 100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	25 78.1%	7 21.9%	32 100.0%
入寮を考えたことはない	307 68.7%	140 31.3%	447 100.0%
	537 68.4%	248 31.6%	785 100.0%

有意差はみられないが、「入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている」者や「現在入寮している」者の利用は2割台と他の者と比べると低く、これに対して、「入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」者の利用は4割をこえる高さである。

なお、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では83.3%と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では44.3%であった。

図表2-32 学生寮の利用 × 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加

	学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	103 98.1%	2 1.9%	105 100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	23 100.0%	0 .0%	23 100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	52 88.1%	7 11.9%	59 100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	114 95.8%	5 4.2%	119 100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	30 93.8%	2 6.3%	32 100.0%
入寮を考えたことはない	423 94.6%	24 5.4%	447 100.0%
	745 94.9%	40 5.1%	785 100.0%

学生寮の利用状況にかかわらず、学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者は少なく、有意差はみられなかった。

両支援利用者が極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では50.0%と低い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では79.2%であった。

図表2-33 学生寮の利用 × 学生相談室の相談や各種ワークショップへの参加

	学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	99 94.3%	6 5.7%	105 100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	21 91.3%	2 8.7%	23 100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	54 91.5%	5 8.5%	59 100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	106 89.1%	13 10.9%	119 100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	30 93.8%	2 6.3%	32 100.0%
入寮を考えたことはない	413 92.4%	34 7.6%	447 100.0%
	723 92.1%	62 7.9%	785 100.0%

学生寮の利用状況にかかわらず、学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加をした者は1割程度であり、有意差もみられなかった。

両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では100.0%と極めて高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では50.0%であった。

図表2-34 学生寮の利用 × 就職情報資料室の利用

	就職情報資料室の利用		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	90	15	105
	85.7%	14.3%	100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	18	5	23
	78.3%	21.7%	100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	51	8	59
	86.4%	13.6%	100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	99	20	119
	83.2%	16.8%	100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	29	3	32
	90.6%	9.4%	100.0%
入寮を考えたことはない	398	49	447
	89.0%	11.0%	100.0%
	685	100	785
	87.3%	12.7%	100.0%

学生寮の利用状況にかかわらず、就職情報資料室の利用をした者は1～2割程度であり、有意差もみられなかった。

なお、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では66.7%と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では44.9%であった。

図表2-35 学生寮の利用 × キャリアレポート放送局の利用

	キャリアレポート放送局の利用		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	103	2	105
	98.1%	1.9%	100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	23	0	23
	100.0%	.0%	100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	59	0	59
	100.0%	.0%	100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	118	1	119
	99.2%	.8%	100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	29	3	32
	90.6%	9.4%	100.0%
入寮を考えたことはない	441	6	447
	98.7%	1.3%	100.0%
	773	12	785
	98.5%	1.5%	100.0%

キャリアレポート放送局の利用をした者は全体の1.5%と極めて少ないため、あくまで参考値であるが、学生寮の利用状況による有意差が示された ($p<.05$)。「入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている」者の利用がおよそ1割と他に比べて明らかに高いことがみてとれる。

両支援利用者が極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者、「入寮を考えたことはない」者ともに50.0%であった。

図表2-36 学生寮の利用 × キャリアカフェの利用

	キャリアカフェの利用		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	100	5	105
	95.2%	4.8%	100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	22	1	23
	95.7%	4.3%	100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	57	2	59
	96.6%	3.4%	100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	110	9	119
	92.4%	7.6%	100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	29	3	32
	90.6%	9.4%	100.0%
入寮を考えたことはない	421	26	447
	94.2%	5.8%	100.0%
	739	46	785
	94.1%	5.9%	100.0%

学生寮の利用状況にかかわらず、キャリアカフェの利用をした者は1割に満たず、有意差もみられなかった。

両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では80.0%と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では34.6%であった。

図表2-37 学生寮の利用 × 就活パスポート（本学Webシステム）の利用

	就活パスポート（本学Webシステム）の利用		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	101	4	105
	96.2%	3.8%	100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	22	1	23
	95.7%	4.3%	100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	58	1	59
	98.3%	1.7%	100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	116	3	119
	97.5%	2.5%	100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	30	2	32
	93.8%	6.3%	100.0%
入寮を考えたことはない	436	11	447
	97.5%	2.5%	100.0%
	763	22	785
	97.2%	2.8%	100.0%

学生寮の利用状況にかかわらず、就活パスポート（本学Webシステム）の利用をした者は5%に満たず、有意差もみられなかった。

両支援利用者が極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では100.0%と極めて高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では27.3%であった。

図表2-38 学生寮の利用 × キャリア支援センターのホームページを見る

	キャリア支援センターのホームページを見る		合計
	いいえ	はい	
現在入寮している	95 90.5%	10 9.5%	105 100.0%
入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない	20 87.0%	3 13.0%	23 100.0%
入寮を申請したが、許可されなかった	56 94.9%	3 5.1%	59 100.0%
入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない	106 89.1%	13 10.9%	119 100.0%
入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている	31 96.9%	1 3.1%	32 100.0%
入寮を考えたことはない	424 94.9%	23 5.1%	447 100.0%
	732 93.2%	53 6.8%	785 100.0%

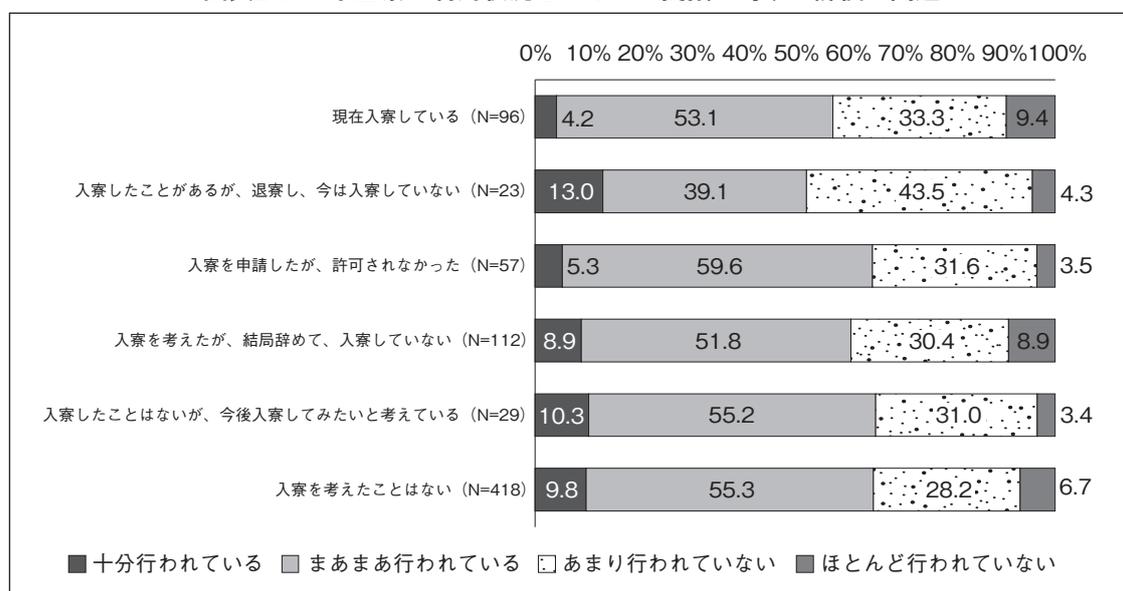
有意差はみられないが、「入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている」者や「入寮を考えたことはない」者、「入寮を申請したが、許可されなかった」者の利用は5%程度と他の者と比べると低く、これに対して、「入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」者の利用は13%と他に比べて高い。

両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では60.0%と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では39.1%であった。

2) 学生寮の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

では、本学のキャリア支援全体に対する評価と学生寮の利用状況には関連がみられるのであろうか。両者の関連を示したものが図表2-39である。

図表2-39 学生寮の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連



本学のキャリア支援の評価率（「十分行われている」+「まあまあ行われている」）は、学生寮の利用状況にかかわらず、いずれも5～6割であり、有意差も示されなかった。

ただし、先に言及したように、本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者、本学の教員・指導教員等への相談をした者、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者、就職情報資料室の利用をした者などは、それぞれのキャリア支援の有益性からみると、現在入寮しているか、入寮を考えたことは

ないかによる違いが示されており、いずれの場合でも、現在入寮している者が入寮を考えたことがない者よりも有益であると感じている点は、今後の支援のあり方を検討する上で特筆すべき点である。

(5)おわりに

本章では、本学の学生の経済・生活支援の利用状況を概観したうえで、その利用状況と、本学で行っている就職・進学のためのキャリア支援の利用状況との関連について、キャリア支援を利用している者に対する有益性にも目を向けながら示すとともに、キャリア支援に対する評価との関連についても示してきた。

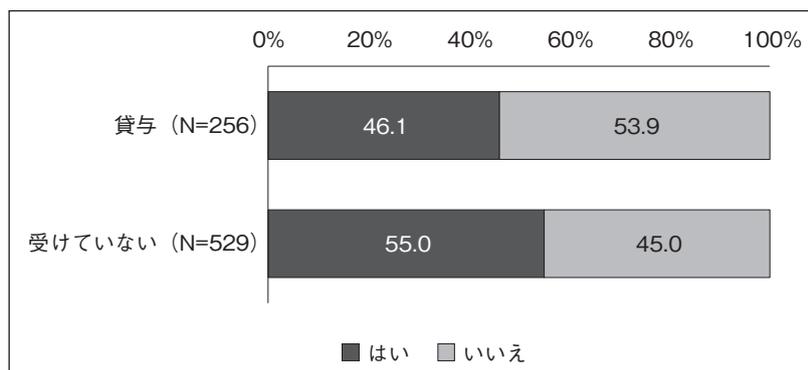
その結果、経済・生活支援の利用状況とキャリア支援の利用状況や評価には有意な関連は見出せないものの、個々のキャリア支援の有益性に関しては、経済・生活支援の利用状況との関連が有意に示されたものもみられた。

本章で取り上げたキャリア支援の利用状況は、学生の学年や卒業後の進路希望などの影響を強く受けることは言うまでもなく、その知見は慎重に解釈する必要があるだろう。その点に留意し、分析をさらに深めながら、経済・生活支援やキャリア支援を有効に、かつ、統合的に行うための具体的な方策を検討し、実践にあたりたいと考えている。

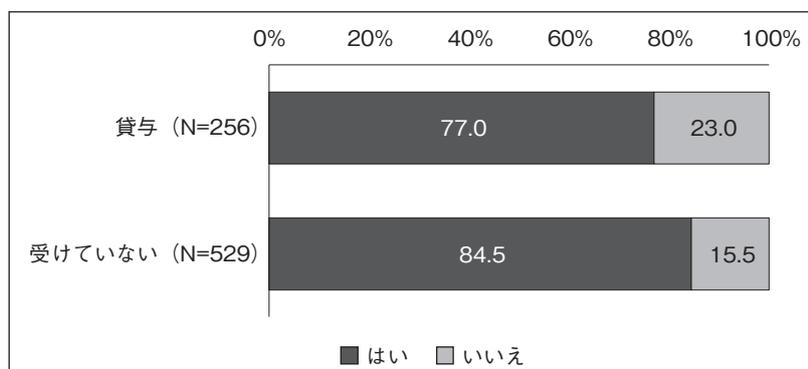
さらにいえば、本章の直接的な問題関心からは若干外れるが、経済的支援の利用者は非利用者に比べて、キャリアに関する相談を両親にしていない傾向も明らかになっている。

図表2-40および図表2-41は、日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況と「キャリアについての相談相手（父親・母親）」の関連をそれぞれ示したものである。

図表2-40 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 × 父親へのキャリアについての相談



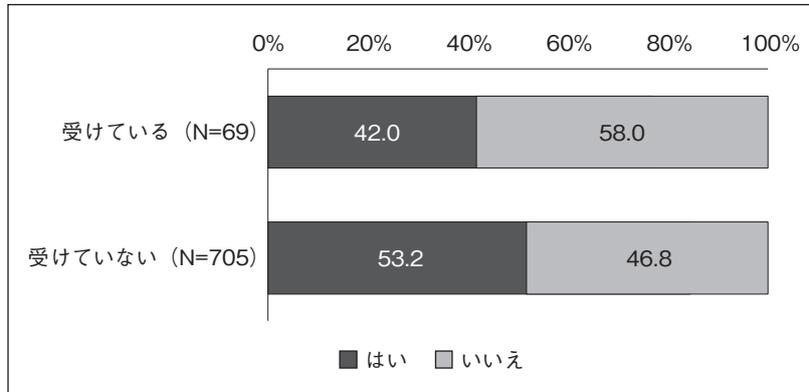
図表2-41 日本学生支援機構の奨学金制度の利用 × 母親へのキャリアについての相談



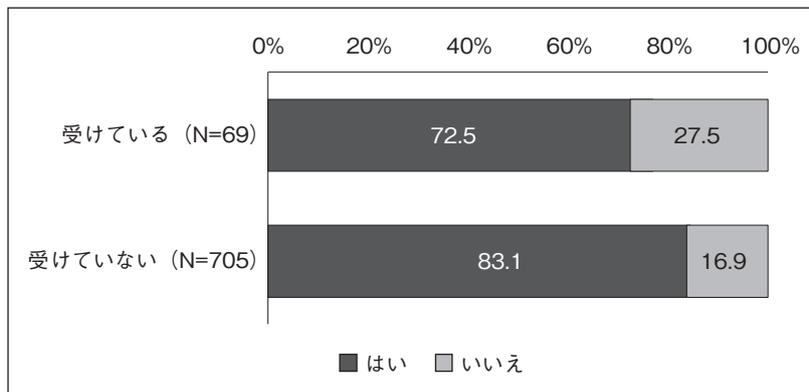
その結果、奨学金制度の利用者は非利用者よりもキャリアについての相談を父親や母親にしていない傾向が有意に示された（父親 $p<.05$ 、母親 $p<.01$ ）。

同様に、図表2-42および図表2-43は、授業料免除制度の利用状況との関連を示したものである。

図表2-42 授業料免除制度の利用 × 父親へのキャリアについての相談



図表2-43 授業料免除制度の利用 × 母親へのキャリアについての相談



その結果、奨学金制度同様、授業料免除制度の利用者は非利用者よりもキャリアについての相談を父親や母親にしていない傾向が有意に示された（父親 $p<.10$ 、母親 $p<.05$ ）。

奨学金制度や授業料免除制度といった経済的支援を利用している者が、大学でも家庭でも、自身のキャリアについて相談できずに一人で抱え込むことがないように、彼女たちに対する意図的な支援を検討する必要もあるだろう。